

素敵な教職員の皆さんに、
ONとOFFのスマートスタイルについてお聞きしていきます。



20代、30代を 振り返って

ON
Style

人間発達科学部 准教授
藤本 孝子

略歴

富山県生まれ、富山育ち。富山大学教育学部卒業。富山大学大学院教育学研究科修了。富山医科薬科大学大学院医学系研究科博士課程修了、博士(医学)取得。2004年富山医科薬科大学和漢薬研究所助手。2009年から人間発達科学部にて、教育研究に従事。

10代のころは、将来自分が研究者になるとも夢にも思っていませんでした。振り返ってみると、ゼミの先生に就職について相談した際、大学院に進学して学位を取得することを勧められたことがきっかけだったと思います。食物学の研究室に所属していて、食品成分が体の中でどのように働くのかということに興味がありました。もともと実験をすることが好きだったので、迷うことなく大学院進学を決めたことを覚えています。テーマはお茶で、その機能性について活性酸素消去作用に着目した研究を行いました。研究に魅了され、そのまま博士課程へ進学し、研究を続けることにしました。その間、ご縁があり和漢医薬学総合研究所に長い間お世話になりました。中国、韓国、タイなどからの留学生も多く、私も教育学部から和漢研へ留学しているような感覚でいました。指導していただいた先生からは、「あなたは薬学部出身ではないし、医者でもないのだから他の人の何倍も頑張らなければならない」と言われたことを覚えています。研究の面白さ、厳しさ、留学生との交流など多くの刺激を受け、貴重な経験をさせていただきました。

20代をワーク・ライフ・バランスという視点で振り返ってみると、とても偏っていたと思

ます。ライフと研究が一緒になっていたのですが、学位をとるという目標がありましたし、毎日は楽しく充実していました。私は無器用だったと思いますが、20代のうちに何かに真剣に取り組む続けることは大切かもしれません。海外のラボへの留学を考えた時期もありましたが、諦めてしまいました。これについては、周りの先生方に相談しもう少し具体的に考えていたらよかったです後悔しているところもあります。

30代になり、結婚・出産を経験しました。妊娠期間中は順調で、予定日近くまで仕事ができるのですが、出産後は大変でした。第一子のときは、陣痛が始まった日に論文のリバイスが届き、お産は難産で緊急手術となりました。産まれた子どもは元気な男の子でしたが、半年後に私が育児疲れで体調を崩しました。第二子の出産は、人間発達科学部への赴任と重なってしまい、今度は夫が体調を崩しました。核家族共働きで夫は仕事柄夜勤や急な仕事で職場から呼び出しがかかることもしばしばです。そこに育児が加わり負担をかけてしまったのだと思います。今では私も夫も体調はほぼ回復しましたが、夫婦そろって30代で病気を経験し、健康であることの大切さを再認識できたことはよかったです。今も仕事と子育ての両立に奮闘中です。子育て

リレーでつなぐ
ワーク・
ライフ・
バランス
vol.10

てにおいては、実母、保育園、学童保育、さらに近所の方にお世話になりながら何とか折り合いをつけています。研究のための時間をいかに確保するかということが課題となっています。(これは子育て中の女性研究者に限ったことではありませんが……)私の場合、今は子育てがあり、子どもが小さいときは平日は夜に仕事の時間が取れない分、土曜保育を利用し、どうにか仕事をこなしていました。男女共同参画推進室の研究サポーター制度を利用させていただいたこともあります。大学の病児保育にも登録をしました。今は、いろいろな制度があり、大変ありがたいことだと思います。ここまで続けてこられたのは、保育園、学童保育、職場環境の整備の充実に加え、周りの方々の温かいサポートがあったからだだと思います。40代ではこれまでお世話になった方々へ感謝の気持ちを、次世代への教育などを通して返していきたいと思っています。



親子で大きな布(フラッグ)に絵を描く企画に参加しました。写真は鉛筆で下書き中。子どもたちが小さかったときは家族で過ごす時間が少なかったように思うので、小学生のうちは家族と一緒にいろいろなことを体験する機会をできるだけ多く持たりたいなあと思っています。

OFF
Style



富山大学男女共同参画推進室

News Letter

Office for Gender Equality, University of Toyama

2015.3
第10号

TOPICS

- 活動報告
- ご案内
- お知らせ
- 今、注目のことば
- リレーでつなぐ
ワーク・ライフ・バランス
- 数字で見る富山大学のいろいろ

チューリップの花言葉は、「愛・思いやり」です

活動報告

平成26年度

男女共同参画チーフ・ オフィサー(CGEO) 第2回 講演会 事例発表

この講演会は、富山県における男女共同参画推進をめざす目的で企業や団体の男女共同参画チーフ・オフィサーにむけて富山県男女参画・県民協働課が中心となって年に数回実施している啓発活動です。

本年度、第2回講演会ではまず最初に、平成26年6月28日に富山県知事から平成26年度「女性が輝く元気企業とやま賞」を受与された2機関から、女性の登用・活用や能力開発に関する先進的な取り組みについて事例発表が行われました。(株)金森メタルからは企業紹介に続いて女性の活躍推進の概要が紹介され、本学からは規模の大きな教育研究機関における男女共同参画推進についての歩みと成果の一部を紹介しました。事例発表に続いて「『脳力経営』実践で女性がいきいきと大活躍～三州製菓の取組み～」と題して齊之平伸一氏(三州製菓(株)代表取締役社長)から「一人三役のすすめ」や「ボトムアップとモチベーションとの関連」について、示唆に富む話を興味深く聞くことができました。

主催:富山県

開催日:平成27年1月20日(日)

会場:富山県民共生センター「サンフォルテ」

参加者:富山県男女共同参画チーフ・オフィサー等 約80名



ご案内

推進室では、齊之平氏をお招きして講演会をいたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

男女共同参画推進室

『脳力経営』

～ダイバーシティと組織の発展について～

基調講演
齊之平 伸一氏
三州製菓株式会社 代表取締役社長

2015.3.19(木)
13:30～15:15

場内 五福キャンパス 基調講演 会議室
対象 教職員 管理職

入村育成センター
個別の悩みを話し
支え合える
強い組織をつくるための
マネジメントについて学びを深める
機会となります。

お知らせ

入試業務・学会参加に伴う ベビーシッター・休日保育利用料補助制度

この制度は、中学校就学前までのお子さんをもつ男女教職員が、業務のため休日等に保育施設を利用した場合に利用料の補助を行うものです。入試業務や学会参加の際に本制度の利用を希望される方は、年間を通じて随時受け付けておりますので、男女共同参画推進室にお申し込みください。

平成27年度 研究サポーター制度

新年度も本制度が継続できるように準備を進めています。平成27年度の募集は、4月頃と9月頃の年2回を予定しています。学内グループウェアや学部等を通じてご案内いたします。(募集期間 2週間程度)

女性教員比率推移

		平成年							
		19	20	21	22	23	24	25	26
全国	比率(%)	女性 11.4	11.8	12.1	12.7	13.0	13.6	14.1	14.7
	現員数(人)	女性 6,803	7,115	7,356	7,782	8,087	8,456	8,870	9,382
		男性 53,133	53,416	53,331	53,409	54,074	53,869	53,871	54,358
富山大学	比率(%)	女性 14.9	16.3	15.8	16.3	16.6	16.4	16.3	17.2
	現員数(人)	女性 130	142	139	144	147	147	147	154
		男性 741	731	743	740	740	749	755	739
	女性比率順位	26	18	22	26	23	27	33	27

注 1) 基準日は、毎年5月1日。
2) 全て助手を除いた数で集計。
3) 調査機関数は、平成19年 87、平成20～26年 86。
出所 国立大学協会「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第11回追跡調査報告書」等より作成

数字で見る 富山大学の いろいろ

【大規模調査から見た女性教員比率の推移】

左の表は一般社団法人 国立大学協会の教育・研究委員会 男女共同参画小委員会が平成27年1月に公表した「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第11回追跡調査報告書」や、これまで発表されていた同追跡調査からの一部抜粋です。平成19年以降の女性教員比率推移を全国と富山大学に区分して表しています。平成26年5月現在、女性教員比率は全国では14.7%、富山大学では17.2%です。今後、さらに高い目標を設定し女性の活躍推進が大学の活性化につながる「戦略」となることが期待されます。

編集後記

男女共同参画推進室のニュースレターは今回第10号という節目を無事に迎えることができました。これまで編集にご協力いただきました皆様、日頃よりご愛読下さっている皆様、心より感謝申し上げます。ニュースレターは富山大学における男女共同参画推進に関する活動について広く知っていただくため、これからも分かり易く情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願いたします。

富山大学男女共同参画推進室News Letter 編集メンバー
藤本孝子 戸部信幸 永山くに子 呉人恵 東田千尋 南村有輝子 須藤梨沙



発行
富山大学男女共同参画推進室

〒930-8555富山市五福3190
E-mail smart@ctg.u-toyama.ac.jp
TEL076-445-6146 FAX076-445-6063
URL http://www3.u-toyama.ac.jp/kyodoss/



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



◆文部科学省主催

女性研究者研究活動支援事業 シンポジウム2014
—女性研究者支援とダイバーシティ・マネジメント—に参加

開催日：平成26年11月26日(木)
会場：一橋講堂

本シンポジウムは今年度で8回目になり、研究環境整備に加え、研究力の向上、リーダーシップの育成、取組みの普及等へと視点を広げていく時期を迎えています。今回は、これまで課題が採択された95機関のうち、83機関が取組み状況等についてポスター発表を行いました。その後6つの分科会に分かれて、課題について意見交換を通して議論を深めました。本学は、『次世代育成』の分科会に参加しました。この分科会には、北海道大学、岩手大学、新潟大学、筑波大学、東京農工大学、東京学芸大学、情報・システム研究機構、大阪府立大学、九州大学、福岡大学、福岡女子大学、富山大学の12機関が参加しました。機関の規模や、補助金が継続しているか等の違いがある中で、各機関とも工夫を凝らした取組みを行っていることが紹介され、事例に基づいて活発な意見交換が行われました。一連の討論を通じて、次世代育成は男女ともに必要で、対象を女性に限って行う事業には抵抗があること、一方で、対象を明確にすることでセミナー等の効果が格段に上がることなどの課題が浮き彫りにされました。

午後からは、橋本孝之氏(日本アイ・ピー・エム(株)会長)より基調講演「IBMの経営とダイバーシティ」、前田芳實氏(鹿児島大学長)より特別講演「きばいもんそ!! かごつま〜意識改革を目指して〜」が行われ、さらに和田勝行氏(文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室長)より女性研究者研究活動支援事業についての説明がありました。

引続いて午前中に行われた、『両立支援』『意識改革』『ポジティブ・アクション(採用、登用)』『研究力向上・リーダーシップ育成』『次世代育成』『連携(地域・企業)・ネットワーク構築』の6分科会のまとめが座長より報告され、特筆すべき取組みを行っている機関より事例紹介が行われました。

全体を通して、女性研究者研究活動支援事業が発展してきていることや、今後向かうべき方向について考える大変示唆に富むシンポジウムでした。



◆独立行政法人 国立女性教育会館主催
平成26年度
「大学等における
男女共同参画推進セミナー」に参加

開催日：平成26年12月4日(木)～12月5日(金)
会場：国立女性教育会館
参加者：全国の大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に携わる教職員83名

この事業は、「第3次男女共同参画基本計画」で男女共同を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実および科学技術・学術分野における男女共同参画に基づいて行われています。

セミナーの1日目には、江原由美子氏(首都大学東京副学長)による「大学の使命と男女共同参画」と題した基調講演、吉武博通氏(筑波大学大学研究センター長)による大学経営戦略としての男女共同参画の推進の意義についての講義が行われました。2日目は各教育機関における男女共同参画推進の課題に関する3つの分科会が実施され、本学は「男女ともに育児・介護との両立をめざした環境づくり」に参加し、高知大学および東邦大学の取組み事例を基にグループワークを行い、多くの示唆を得ました。

◆国立大学法人 金沢大学主催
HOKURIKU WOMEN
RESEARCHERS' NETWORK
シンポジウム

～若手女性研究者の活躍をめざして～に参加

開催日：平成26年12月6日(土)
会場：金沢歌劇座
参加者：約120名

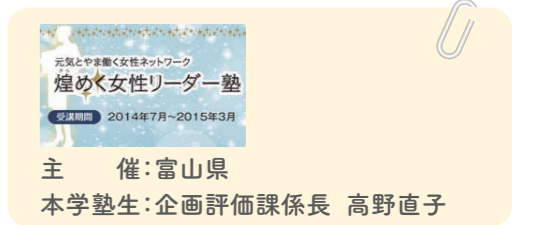
金沢大学が、平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」に採択され、北陸地域での支援ネットワークの普及・拡大に取組む中で、富山大学男女共同参画推進室もネットワークの一員として参画しています。本シンポジウムでは、櫻見由美子氏(金沢大学教授)による中村賞受賞者講演、福島理恵子氏(柳東芝デザインセンター参事 兼 同研究開発センターインタラクティブメディアラボラトリー研究主幹)による基調講演、現在、女性研究者として活躍している金沢大学卒業生と金沢大学教員によるパネルディスカッションが行われました。様々な立場、分野で活躍中の皆さんのそれぞれの経験や考え方を示され、多彩なロールモデルが提示されるとともに、ネットワーク機関の意見交換、交流の機会となりました。

大学入試センター試験特別保育を実施

昨年度に引き続き、ベビーシッター・休日保育利用料補助制度の一環として、平成27年1月17・18日に行われた大学入試センター試験の業務に従事した教職員を支援しました。女性教職員4名(のべ6名)の1歳から小学2年生までのお子さん6名(のべ9名)をお預かりし、大学近隣の保育所において一時保育を行いました。

◆塾生レポート

元気とやま働く女性ネットワーク
煌めく女性リーダー塾(第2期)に参加



7月から1回のペースで参加26企業等の塾生が集まり、女性のライフキャリアデザインに関する講演、県内企業で活躍する女性リーダーをパネリストに迎えての各企業の女性活躍の状況や取組み、企業経営者から企業の女性活躍などダイバーシティ(多様性)推進の取組みやこれからの企業経営に必要な視点、石井富山県知事による仕事と家庭の両立支援に関する県の取組みやワークライフバランスのとり方等について学び、塾生それぞれの企業の現状や課題、リーダーを目指すために悩んでいることなどについてディスカッションを重ねました。

10月からは、課題研究「女性活躍推進の課題と取組みのポイント」について、講師から課題研究の取組み方やプレゼンテーションの具体的な方法などの講義を受け、塾生は5つのグループに分かれてそれぞれの研究テーマを決め、2月のプレゼンテーション発表会に向けて課題研究を進めてまいりました。プレゼンテーション発表会では、各グループが塾生や自社社員及び塾生参加企業等へのアンケート調査、企業の女性活躍推進の取組みに関する研究や塾生参加企業等へのヒアリング実施など多彩な切り口で進めた課題研究の結果を発表いたしました。

プレゼンテーション発表会を終えて、さまざまな職種や立場の塾生の方とのディスカッションや課題研究の取組みは自身を見直す良い機会となりました。また、管理職の方にアンケート調査をお願いしたことで管理職の方々が考えていらっしゃる事の一端を知る良い経験となりました。この元気とやま働く女性ネットワークの活動に参加したことを通じて視野を広げ、「煌めく女性リーダー塾」の名のとおり、煌めけるよう努力したいと思います。

◆次世代育成レポート

「子どもとのふれあい体験」
体験交流発表会見学

主催：人間発達科学部
開催日：平成27年2月18日(木)
会場：人間発達科学部



学生たちからブーメランを作り方を教わる子供たち

今年度の夏季学童保育で科学教室のプログラムの1つを実施した、人間発達科学部の科学実験コースの学生9名(女性5、男性4)が発表しました。学生たちは、学校外における教育機会への参加を通じて、子供との触れ合いの中でサイエンス(科学・理科)などの教科教育を行うための基礎を学びました。子供に「楽しい」「面白い」と感じてもらいながら正しい科学知識を身に付けてもらうための工夫を重ねる中で、学習と教育実践を結びつける力を養うことができた手応えを報告しました。永山室長からは、この経験を活かして行ってほしいと激励のエールが送られました。

推進室主催の学童保育が、参加する小学生にとっては科学実験に接する場、学生にとっては教育実践の場となっていることを再確認できたことは大きな収穫でした。

注目のごとば

その意味
知ってる?

第3回 マタニティマーク

マタニティマークは、公共交通機関などで妊産婦への配慮を促すため、厚生労働省が2006年に作成したものです。妊産婦自身が身につけたり、公共機関等(交通機関、職場、飲食店など)がその取組みや呼び掛け文を付してポスターなどにして提示することで、妊産婦にやさしい環境づくりを推進するものです。外見では見分けがつかない妊娠初期でも、電車で座りたい、たばこの煙が気になる、体調が悪くなりやすい、など様々な苦労があります。

周囲の配慮や思いやりを促すマークとして、少しずつ認知度が上がっているようです。

厚生労働省 マタニティマークについて
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/maternity_mark.html



本学では、高岡キャンパスの妊産婦等駐車場マークとして使われています。